

実施の目的

○大阪府教育委員会、市町村教育委員会及び学校が、生徒の学力の状況をつかむことで、教育の成果と課題を明らかにし、今後の教育にいかします。

○生徒のみなさんが、自分の学習の到達状況を正しく知ることにより、自分の学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高めます。

○大阪府教育委員会が、調査結果を使って、大阪府公立高等学校入学者選抜の調査書に記載する評定が、公平性の高いものであるかどうかを確認する資料を作成し、市町村教育委員会と学校に提供します。

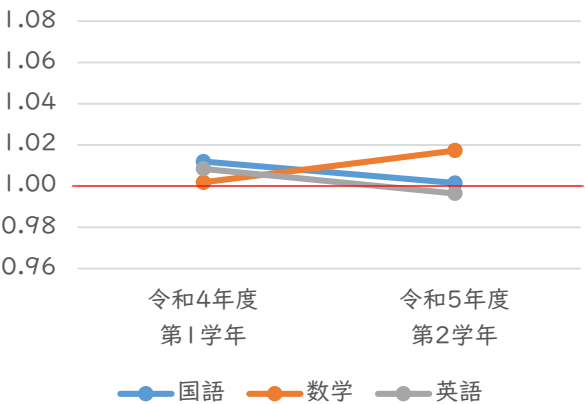
令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第2学年 概要>

実施内容

- ★実施日 令和6年1月10日(水)
- ★教科 国語、社会、数学、理科、英語
(英語はリスニング問題を含む)
- ★出題形式
 - ・選択式問題(選択肢から選んで答える問題)
 - ・短答式問題(短い語句や数値等で答える問題)
 - ・記述式問題(長い語句や文章等で答える問題)

同一集団の経年比較

府の平均正答率を1とした
同一集団の経年比較



府の平均正答率を1とした同一集団の経年比較

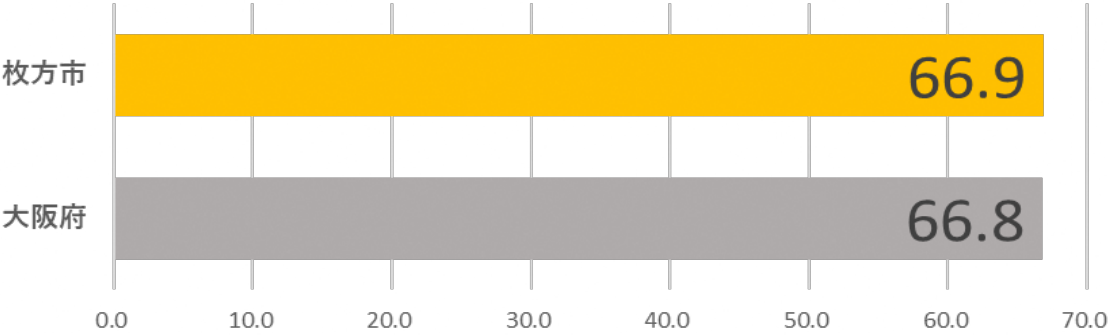
	令和4年度 第1学年	令和5年度 第2学年
国語	1.01	1.00
数学	1.00	1.02
英語	1.01	1.00

平均点

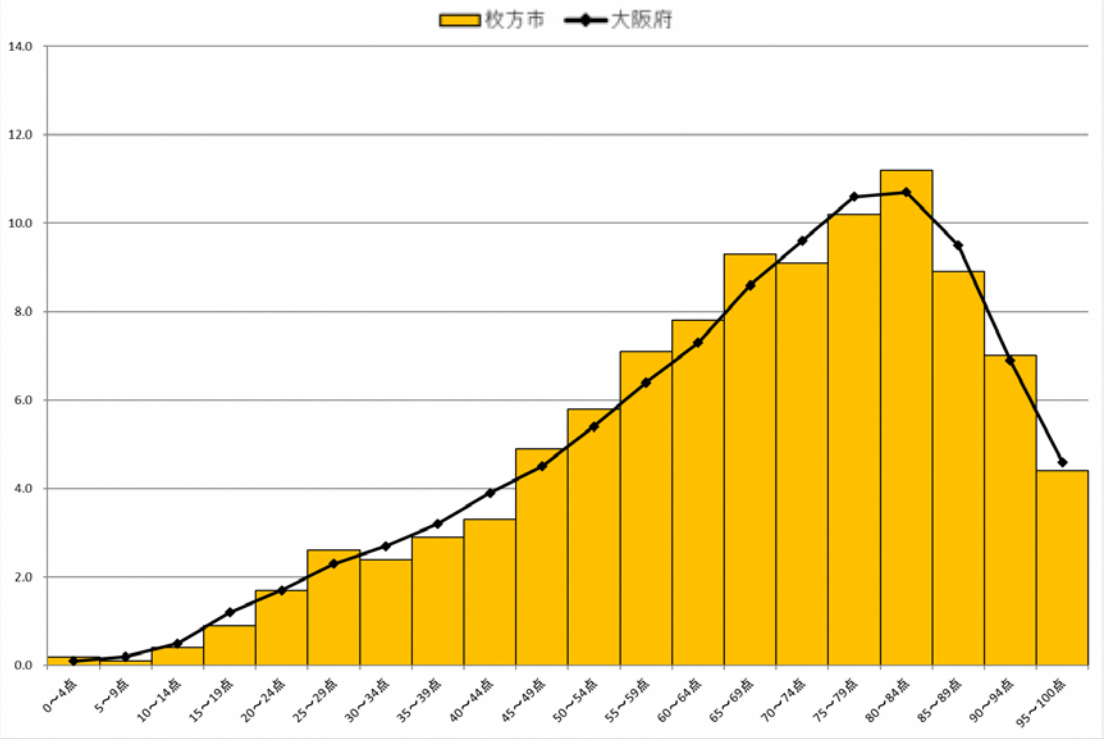
第2学年	枚方市	大阪府
国語	66.9	66.8
社会A	52.6	54.2
数学	53.1	52.2
理科A	37.6	40.2
理科B	39.1	40.3
英語	56.9	57.1

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第2学年 国語>

平均点



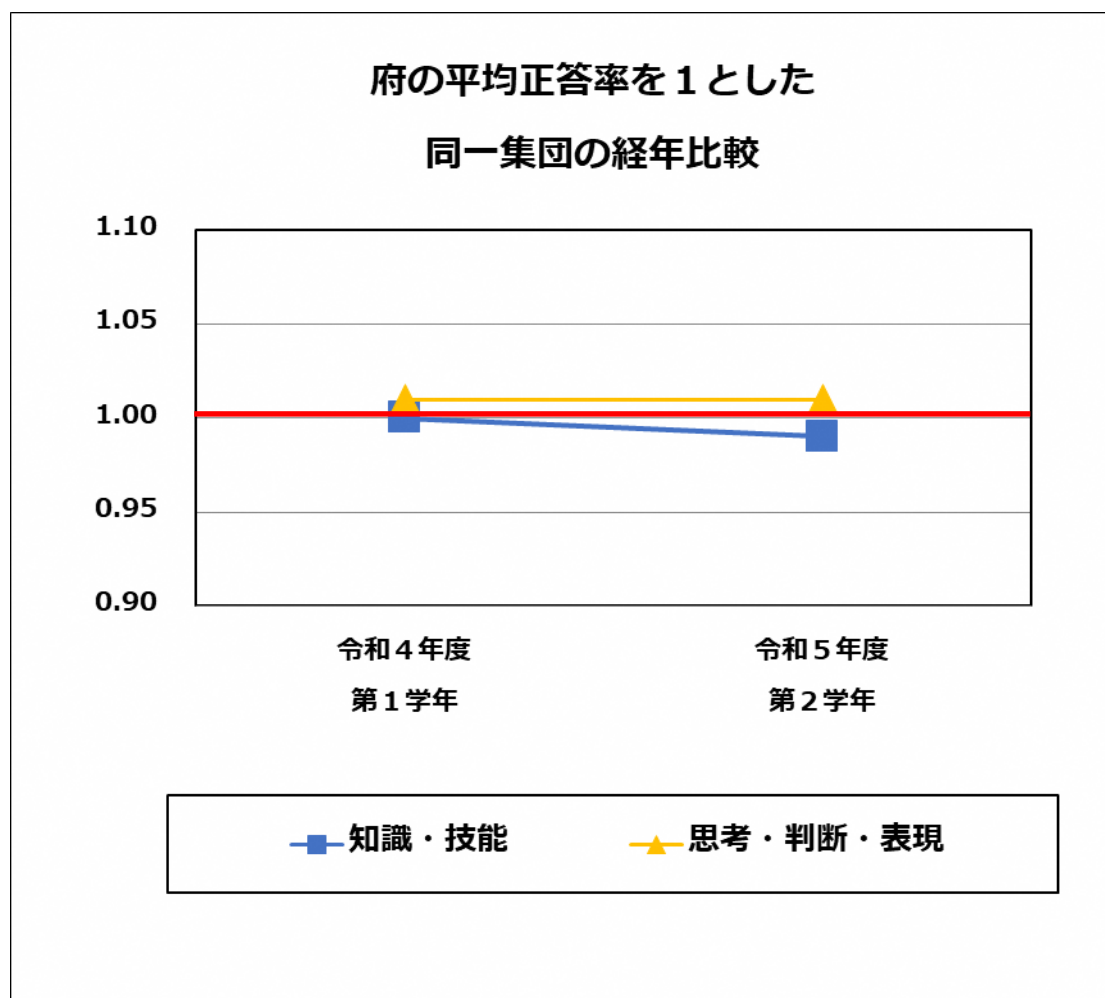
得点分布



分類・区分別集計結果

分類		区分	対象設問数	配点	平均点	
					枚方市	大阪府
全体			30	100	66.9	66.8
学習指導 要領の 領域等	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	9	21	16.2	16.4
		情報の扱い方に関する事項	4	17	11.8	11.8
		我が国の言語文化に関する事項	6	22	12.3	12.7
	思考力、判断力、 表現力等	話すこと・聞くこと	6	24	14.4	14.4
		書くこと	5	18	12.9	12.6
		読むこと	8	31	20.0	20.0
		評価の観点		知識・技能	18	56
思考・判断・表現	19			73	47.3	47.0
問題形式		選択式	15	51	37.2	37.3
		短答式	12	34	23.7	23.6
		記述式	3	15	6.0	6.0

同一集団の経年比較



府の平均正答率を1とした同一集団の経年比較

	令和4年度 第1学年	令和5年度 第2学年
知識・技能	1.00	0.99
思考・判断・表現	1.01	1.01

成果があった設問

3 早川さんは、「レポートの下書き」中の線部Aが誤っていることに気づきました。線部Aを適切に書きかえなさい。

	正答率
枚方市	60.4
大阪府	57.2

海外に広がる抹茶と緑茶

青川中学校 2年2組 早川ひかる

1 はじめに

先日、テレビのニュースで、外国人観光客が抹茶を使ったおかしをおみやげとして大量に買っていく様子が紹介されていた。解説によると、近年、海外で、抹茶と緑茶の人気の高まっているとのことだった。このことから、海外の人たちは抹茶と緑茶にどのような印象を持っているのか、人気の高まっている背景には何があるのかということに興味を持ち、調べてみた。

2 調査方法

- ・アメリカから来たホワイト先生にインタビューをする。
- ・学校図書館で本などを調べる。
- ・インターネットで検索して調べる。

3 調査結果

(1) ホワイト先生の抹茶と緑茶に対する印象について

ホワイト先生に、抹茶と緑茶に対する印象についてインタビューをしたところ、ホワイト先生や先生の周りの人たちの間でも、抹茶を使ったクッキー、チョコレート、アイスクリームなどが好んでいるということだった。また、抹茶を使ったおかしなどを食べる人だけでなく、緑茶を飲む人も増えているということだった。ホワイト先生は、抹茶と緑茶に対して、おいしいだけでなく、健康的でおしゃれな印象を持っているようだ。

(2) 抹茶と緑茶の関係について

学校図書館の本で、抹茶と緑茶の関係について調べてみた。【資料1】は、調べたことをもとに緑茶の分類についてまとめたものである。緑茶は「チャノキ」という植物の葉から作られたもので、茶葉を発酵という処理をせずに

【資料1】

製造方法などによる緑茶の分類



(『お茶の科学』により作成)

【レポートの下書き】

早川さんの学級では、「食」をテーマに一人ひとりがレポートを作成することになりました。次は、早川さんが抹茶と緑茶について書いた「レポートの下書き」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

大問3 問3（評価の観点：思考・判断・表現）

【問題の概要】

レポートの下書き中の言葉を適切な形に書きかえる

【出題の趣旨】

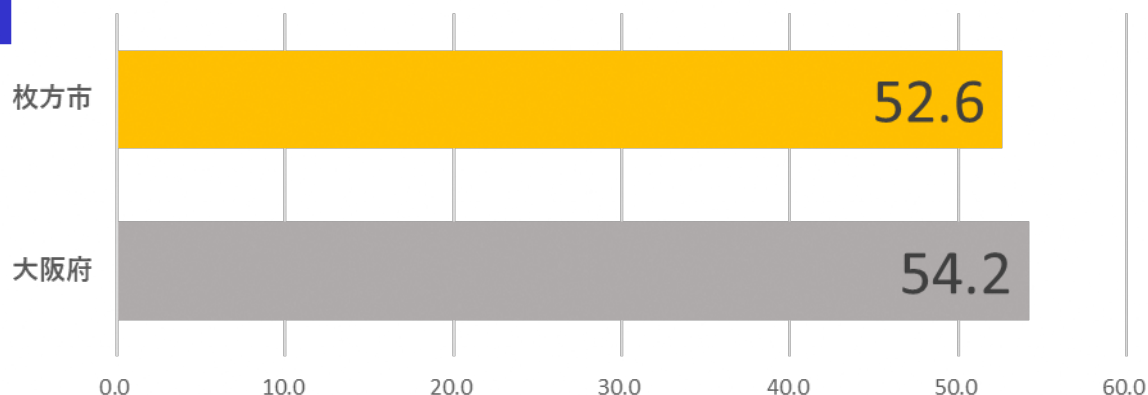
文脈に合わせて適切に書くことができる

（正答例）

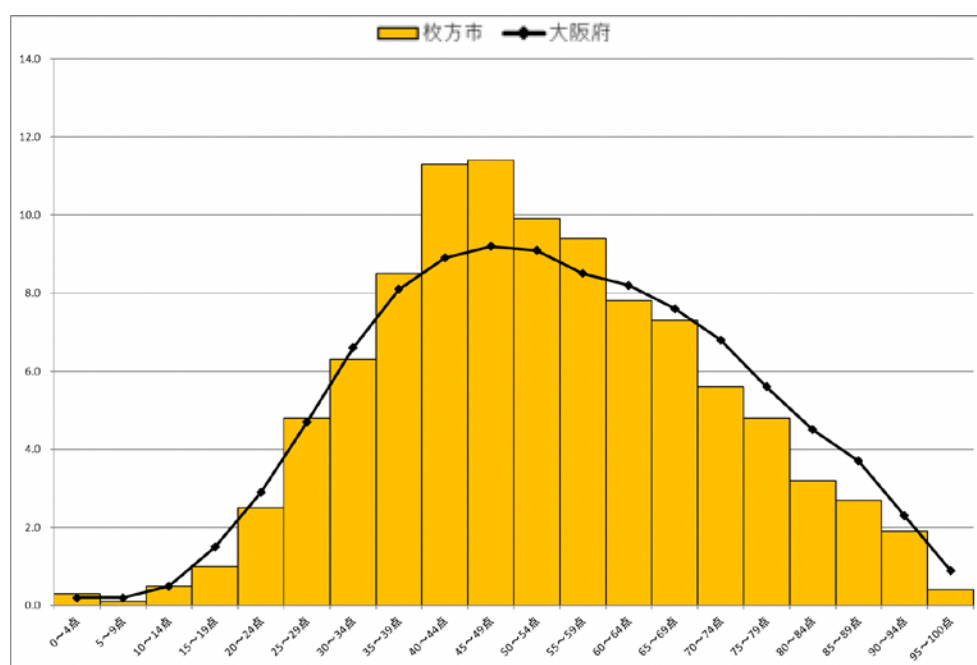
好まれている

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第2学年 社会A>

平均点



得点分布



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数	配点	平均点	
				枚方市	大阪府
全体		35	100	52.6	54.2
学習指導要領の領域等	地理的分野	19	55	31.7	32.0
	歴史的分野	16	45	20.9	22.2
評価の観点	知識・技能	26	71	38.4	39.3
	思考・判断・表現	9	29	14.1	15.0
問題形式	選択式	29	82	42.0	43.4
	短答式	4	10	7.5	7.5
	記述式	2	8	3.1	3.3

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第2学年 社会>

成果があった設問

	正答率
枚方市	46.6
大阪府	37.5

③ さやさんのクラスでは、江戸時代の歴史に関することについて調べることになりました。次の問いに答えなさい。

- (1) 1班は、徳川氏が豊臣氏を滅ぼした大阪の陣に関することについて調べました。
【メモ1】は、1班のれんさんが調べたことをもとにつくったものです。あとの問いに答えなさい。

【メモ1】

○大阪の陣は、1614年と1615年に起こった二度にわたる戦いである。

○1614年に起こった冬の陣について

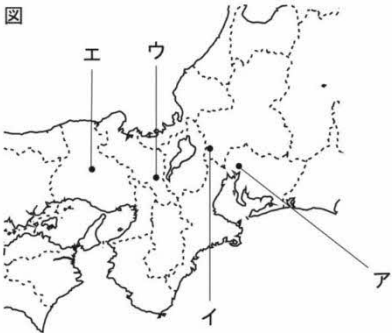
- ・関ヶ原の戦いで石田三成に勝利し、江戸幕府を開いた徳川（ a ）は、茶臼山付近（現在の大阪市天王寺区）に本陣をおき、豊臣氏側と戦った。



茶臼山

○1615年に起こった夏の陣について

- ・樗井付近（現在の泉佐野市と泉南市の境界付近）での戦いや各地の戦いで相次いで勝利した徳川氏側は、豊臣秀吉によって築かれた大阪城を攻め落とした。



(.....は現在の県界を示す)

- ① 【メモ1】中の（ a ）に入る人名を書きなさい。
- ② 図中のア～エのうち、【メモ1】中の下線部⑥が起こった場所として最も適しているものを1つ選びなさい。

大問3 (1) ② (評価の観点：知識・技能)

【問題の概要】

徳川家康が石田三成に勝利した関ヶ原の戦いが起こった場所を選ぶ

【出題の趣旨】

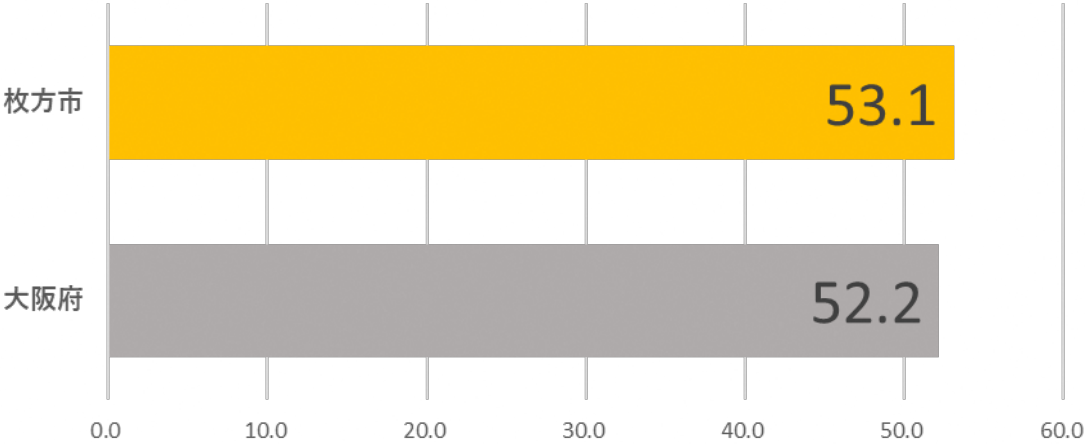
関ヶ原の戦いが起こった場所について理解している

(正答)

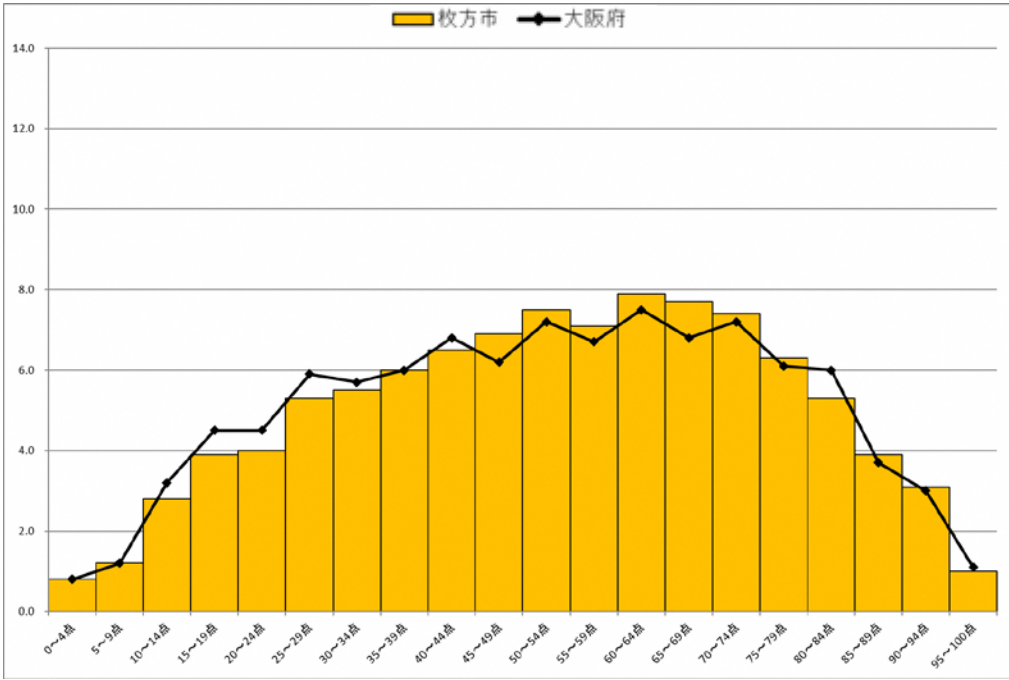
イ

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第2学年 数学>

平均点



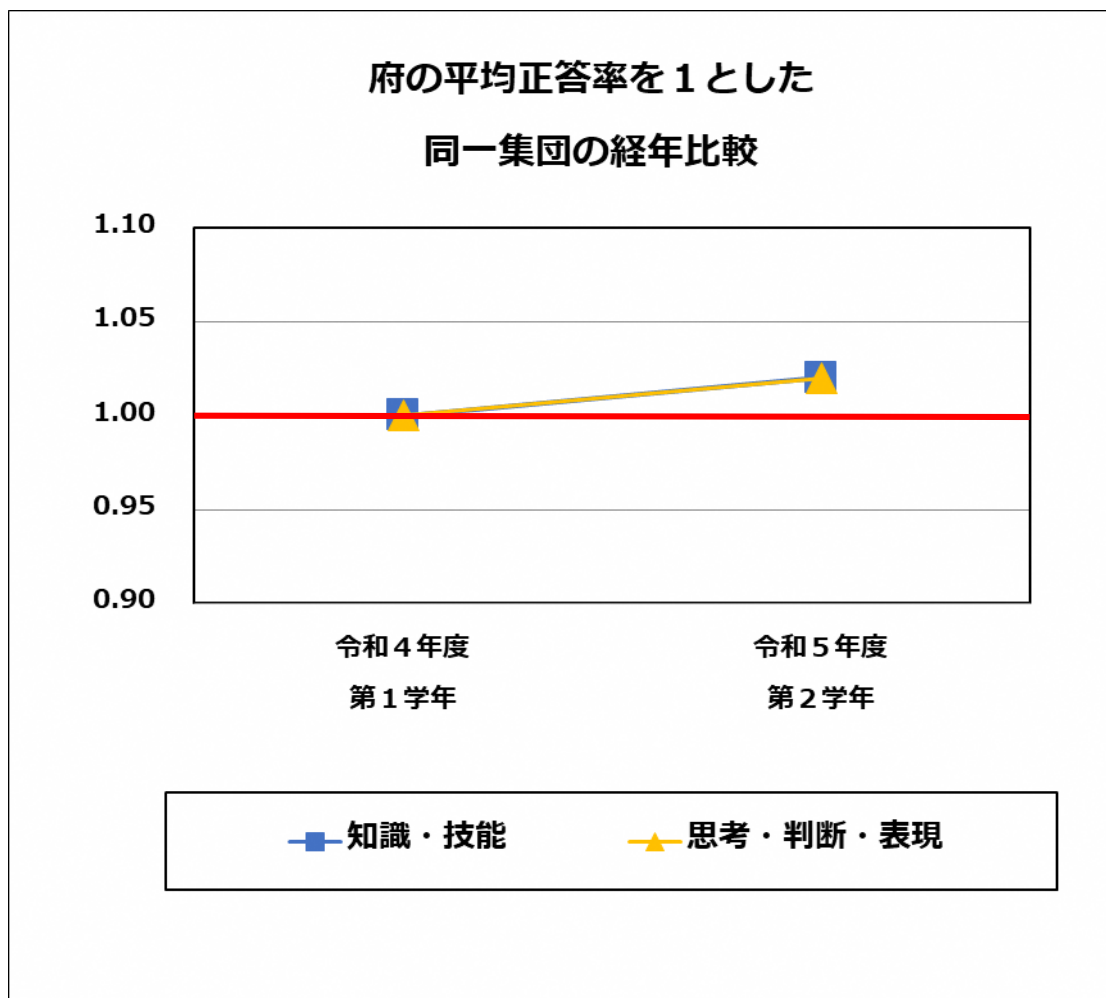
得点分布



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数	配点	平均点	
				枚方市	大阪府
全体		29	100	53.1	52.2
学習指導要領の領域等	数と式	10	36	18.7	18.6
	図形	9	32	19.3	18.9
	関数	10	32	15.1	14.7
評価の観点	知識・技能	18	64	40.3	39.5
	思考・判断・表現	11	36	12.9	12.7
問題形式	選択式	11	38	22.7	22.3
	短答式	16	56	28.7	28.3
	記述式	2	6	1.7	1.6

同一集団の経年比較



府の平均正答率を1とした同一集団の経年比較

	令和4年度 第1学年	令和5年度 第2学年
知識・技能	1.00	1.02
思考・判断・表現	1.00	1.02

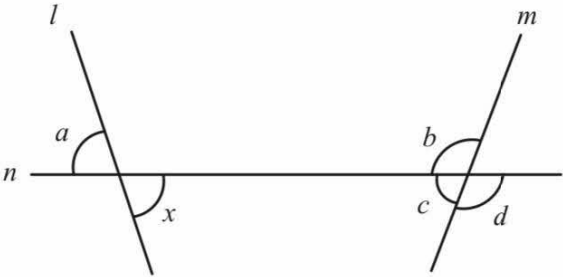
成果があった設問

	正答率
枚方市	58.7
大阪府	52.1

③ 次の問いに答えなさい。

(1) 図1のように、2つの直線 l 、 m に1つの直線 n が交わっています。このとき、 $\angle x$ の同位角について、あとのア～オから正しいものを1つ選びなさい。

図1



- ア $\angle x$ の同位角は、 $\angle a$ である。
- イ $\angle x$ の同位角は、 $\angle b$ である。
- ウ $\angle x$ の同位角は、 $\angle c$ である。
- エ $\angle x$ の同位角は、 $\angle d$ である。
- オ $\angle x$ の同位角は、 $\angle a$ から $\angle d$ までの中にはない。

大問3 (1) (評価の観点：知識・技能)

【問題の概要】

同位角の位置にある角について正しい記述を選ぶ

【出題の趣旨】

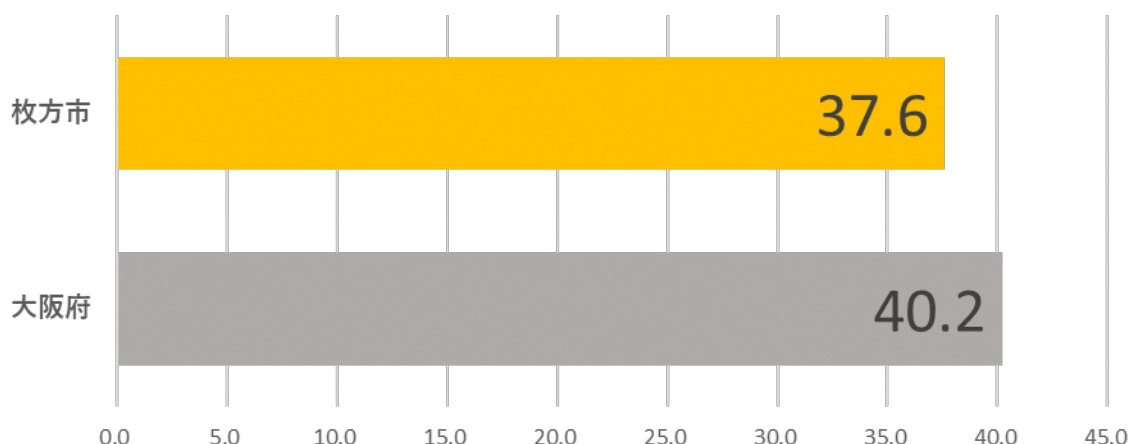
同位角の意味を理解している

(正答)

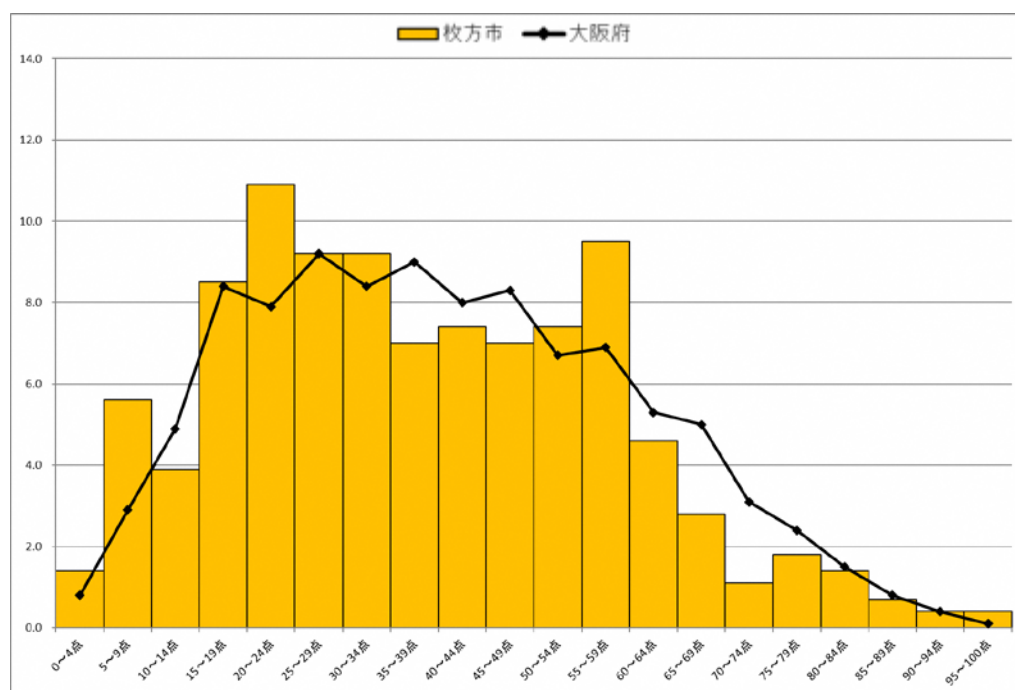
エ

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第2学年 理科A>

平均点



得点分布

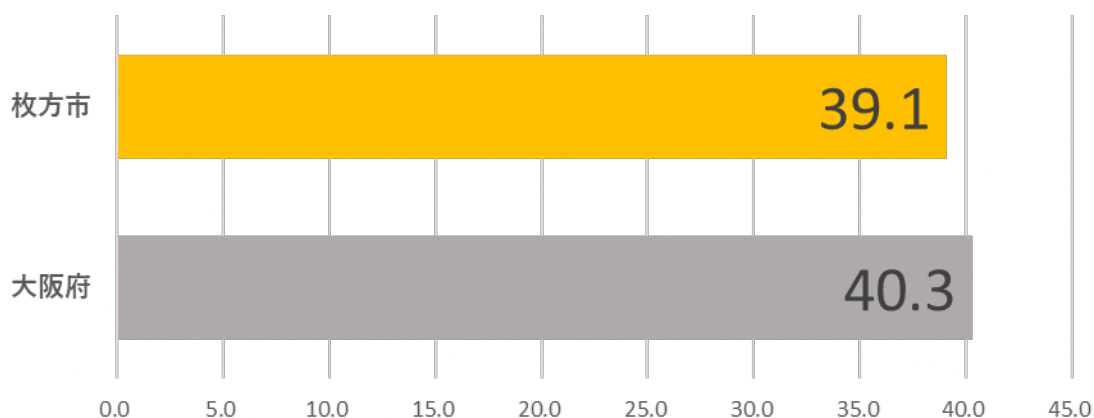


分類・区別集計結果

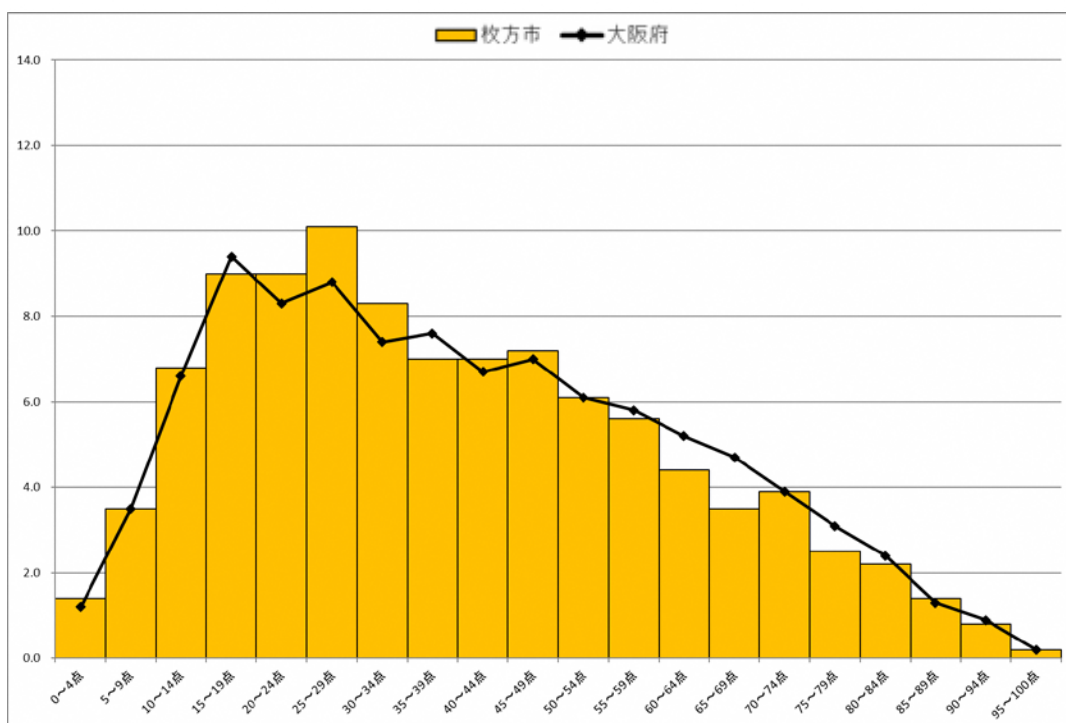
分類	区分	対象設問数	配点	平均点	
				枚方市	大阪府
全体		30	100	37.6	40.2
学習指導要領の 領域等	「エネルギー」	6	20	6.3	6.9
	「粒子」	12	40	16.6	16.6
	「生命」	12	40	14.8	16.8
評価の観点	知識・技能	14	44	18.9	21.1
	思考・判断・表現	16	56	18.8	19.2
問題形式	選択式	16	52	21.3	22.7
	短答式	12	40	12.6	13.8
	記述式	2	8	3.7	3.7

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第2学年 理科B>

平均点



得点分布



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数	配点	平均点	
				枚方市	大阪府
全体		30	100	39.1	40.3
学習指導要領の領域等	「粒子」	12	40	15.6	15.9
	「生命」	12	40	15.5	16.1
	「地球」	6	20	8.1	8.3
評価の観点	知識・技能	14	44	17.9	19.0
	思考・判断・表現	16	56	21.2	21.3
問題形式	選択式	16	53	22.3	22.6
	短答式	12	39	13.2	14.0
	記述式	2	8	3.6	3.6

成果があった設問

	正答率
枚方市	56.3
大阪府	50.5

(3) <実験>を行ったあと2人は、炭酸水素ナトリウムを加熱したときに起こる化学変化を次のようにまとめました。①、②の問いに答えなさい。

【まとめ】

<実験>の結果から、捕集用の試験管に集めた気体は二酸化炭素であること、加熱用の試験管の口付近についた液体は水であること、「残った固体」は炭酸水素ナトリウムとは異なる物質であることがわかった。

また、「残った固体」は何かを調べたところ、炭酸ナトリウムであることがわかった。

これらのことから、炭酸水素ナトリウムを加熱したときに起こる化学変化とその化学反応式は、次の通りであると考えられる。

炭酸水素ナトリウム (NaHCO₃) を加熱すると、炭酸水素ナトリウムは、炭酸ナトリウム (Na₂CO₃)、二酸化炭素 (CO₂)、水 (H₂O) に分解する。

【化学反応式】 ②

① 【まとめ】中の下線部②について、炭酸水素ナトリウムを加熱したときに起こる分解のように、加熱することで1種類の物質が2種類以上の物質に分解する化学変化は、何と呼ばれていますか、書きなさい。

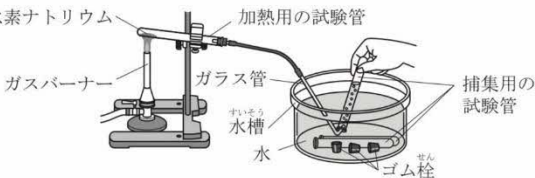
③ ゆみさんとけんさんは、理科の授業で次の<実験>を行いました。(1)～(4)の問いに答えなさい。

<実験> 炭酸水素ナトリウムを加熱し、加熱後にできる物質について調べる。

方法

1 炭酸水素ナトリウム 2.0 g を乾いた加熱用の試験管に入れる。図1のような実験装置を組み立てて炭酸水素ナトリウムを加熱し、ガラス管の先から出てきた気体を捕集用の試験管に集める。気体を集める際、最初に出てきた試験管1本分の気体は捨て、そのあとに出てきた気体を3本の捕集用試験管に集める。

図1 炭酸水素ナトリウム



2 気体の発生が止まったら、ガラス管を水槽の水から取り出したあと、加熱をやめる。

3 捕集用の試験管に集めた気体の性質を調べる。

(調べる方法は省略)

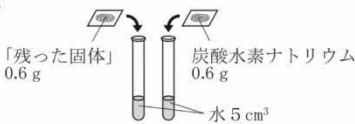
4 加熱用の試験管の口付近についた液体の性質を調べる。

(調べる方法は省略)

5 加熱後に加熱用の試験管に残った固体（以下、「残った固体」とする）と、炭酸水素ナトリウムの性質のちがいを調べる。

I 2本の試験管を用意し、図2のように、1本には「残った固体」0.6 g と水 5 cm³を入れて 20℃にし、もう1本には炭酸水素ナトリウム 0.6 g と水 5 cm³を入れて 20℃にし、水へのとけ方を調べる。

図2



II Iの2本の試験管それぞれに③を1滴加えて、水溶液の色の変化を調べる。

大問3 (3)① (評価の観点：知識・技能)

【問題の概要】

加熱することで1種類の物質が2種類以上の物質に分解する
化学変化の名前を書く

【出題の趣旨】

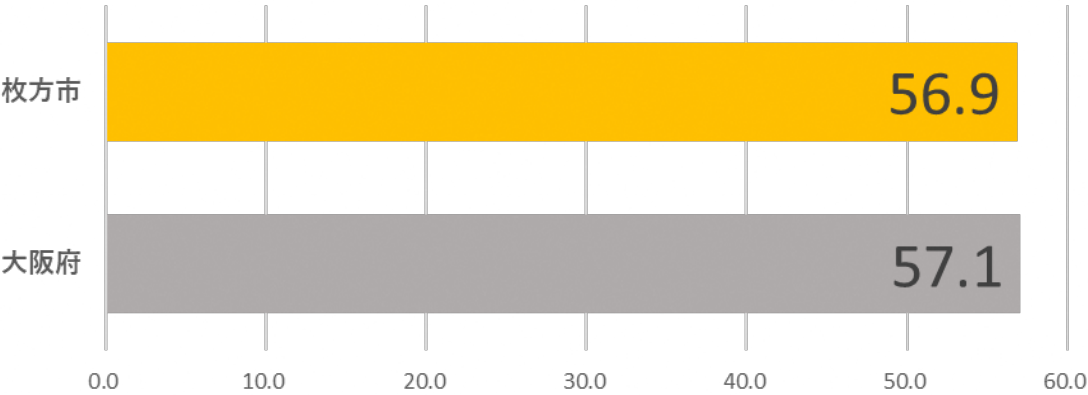
熱分解について理解している

(正答)

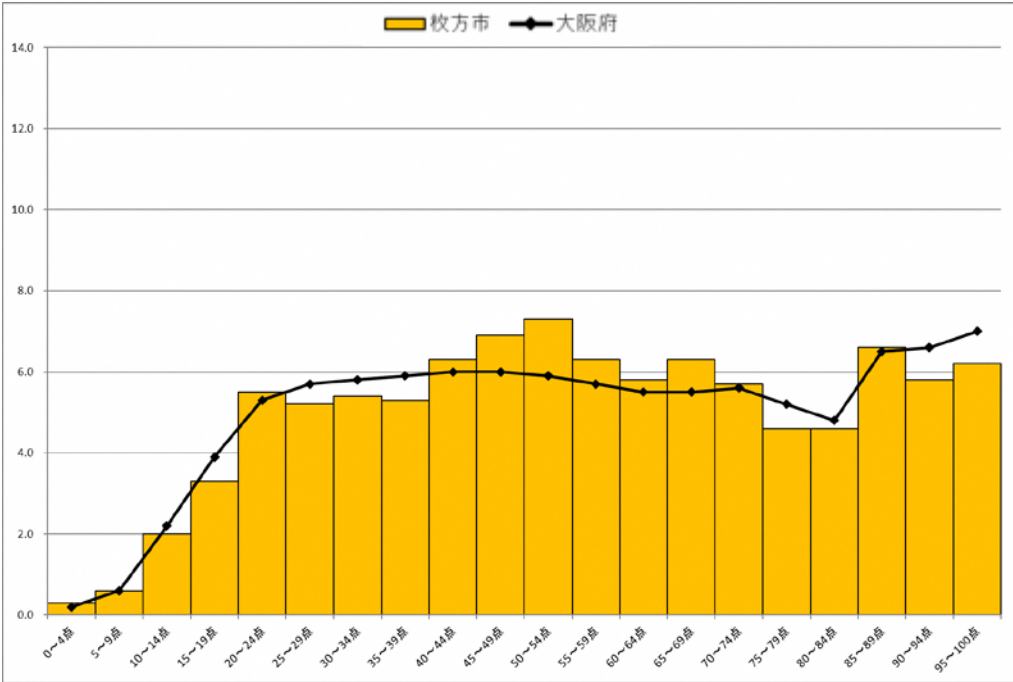
熱分解

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第2学年 英語>

平均点



得点分布

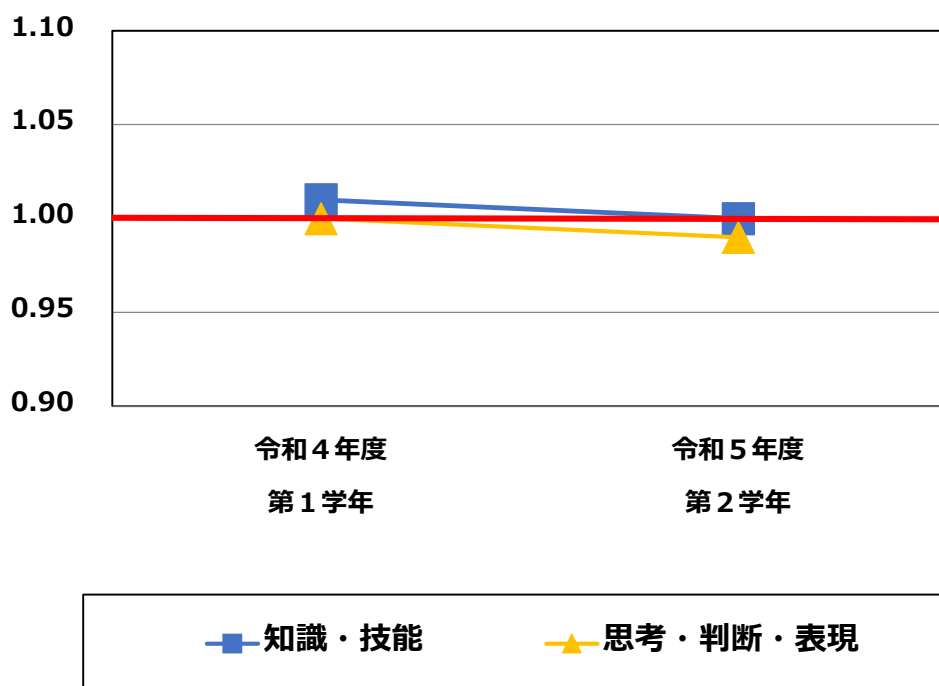


分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数	配点	平均点	
				枚方市	大阪府
全体		37	100	56.9	57.1
学習指導要領の 領域等	聞くこと	12	30	20.9	20.8
	読むこと	12	31	18.6	18.9
	書くこと	13	39	17.4	17.5
評価の観点	知識・技能	19	50	25.9	26.0
	思考・判断・表現	18	50	31.0	31.2
問題形式	選択式	25	68	45.0	45.0
	短答式	4	8	5.3	5.3
	記述式	8	24	6.5	6.9

正答率

府の平均正答率を1とした
同一集団の経年比較



府の平均正答率を1とした同一集団の経年比較

	令和4年度 第1学年	令和5年度 第2学年
知識・技能	1.01	1.00
思考・判断・表現	1.00	0.99

成果があった設問

	正答率
枚方市	64.4
大阪府	60.8

- 4 次の(1)～(5)の()に入る語句として最も適しているものを、あとのア～エからそれぞれ1つずつ選びなさい。なお、(2)～(5)はAとBの会話です。

(3) A : Look! This hat is nice. Whose hat is this?

B : It's ().

ア Bob's

イ me

ウ he

エ their

大問4 (3) (評価の観点：知識・技能)

【問題の概要】

会話文の空欄に入る適切な語(所有代名詞)を選ぶ

【出題の趣旨】

語や文法事項等を理解して、正しい文を書くことができる

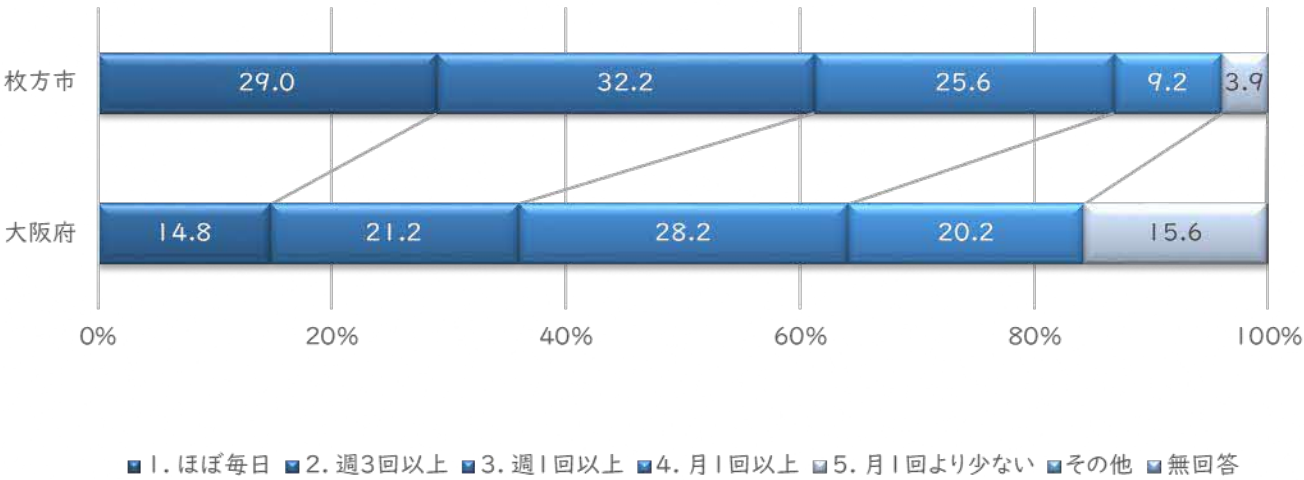
(正答)

ア

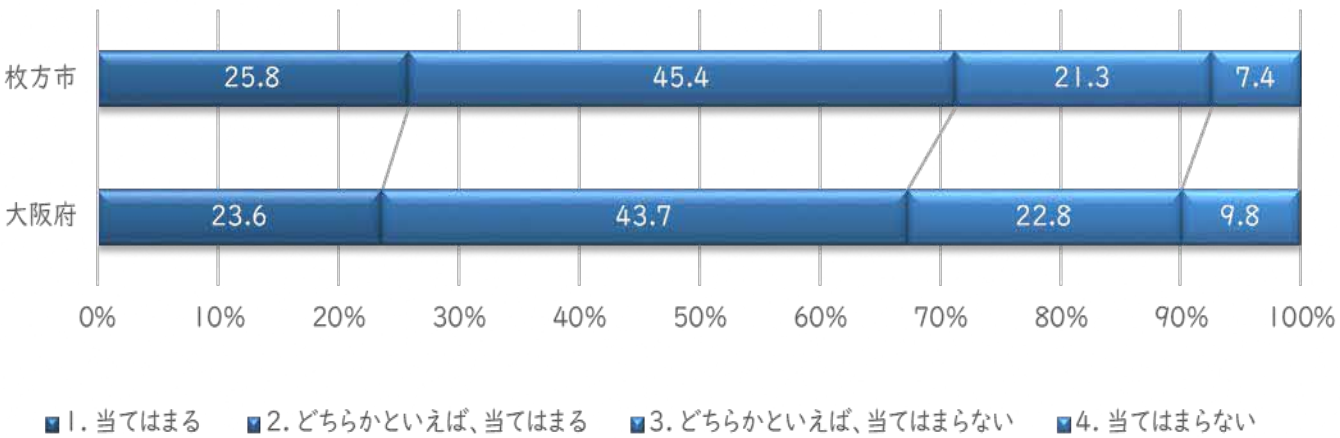
アンケート結果

★特に望ましい状況にある項目（府比+5P以上） ○:望ましい状況にある項目（府比+2.5P以上）

★授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか。



○授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。



ICT機器を活用した学習や自分の考えを整理したりまとめたりすることに関する項目で、**大阪府の平均を上回る**結果となりました。今後も、ICT機器を効果的に活用しながら、個に応じた学習活動・学習支援の充実を図っていきます。

枚方市が大切にしている5つのCの視点（非認知能力の育成）

枚方市では、学習指導要領が示す、これからの子どもたちに必要な資質・能力を育成するために、Cから始まる5つの視点を大切にします。1人1台のタブレット端末を活用し、5つのCの視点を意識し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を身につけていきます。

C

チャレンジ
挑戦

学校生活の中で、課題を解決したり、目的を達成したりするために、困難な問題や未経験のこと等に積極的に取り組みます。また、自分自身で新たな課題を発見します。

問題発見
問題解決



家庭学習
学習習慣

粘り強さ
積極性

C

コミュニケーション
意思伝達

相手の立場を意識しながら、自分の考えを相手にわかりやすく、効果的に伝えます。また、相手の意見や考えを正しく理解するために聴きます。

発表
プレゼン
テーション



遠隔授業
オンライン

対話
議論
意見交流

C

コラボレーション
協働

課題を解決したり目的を達成したりするために、自分と異なる考えを持つ人を尊重し、認め合いながら協力して取り組みます。

多様な
考えの尊重



連携
協働制作

C

クリエイティビティ
創造

課題や目的を解決するための柔軟なアイデアを表現します。
また、アイデアを相手と共有することで、より深まりのあるアイデアを創り出します。

創造



表現
制作

アイデア
の共有

C

クリティカルシンキング
思考・判断

物事を多面的な視点からとらえながら、調べた内容や相手の意見などの情報を正しく判断するために、その理由や事実と矛盾がないかどうかについて、自ら考え、分析し、判断します。

批判的
思考



情報分析
判断

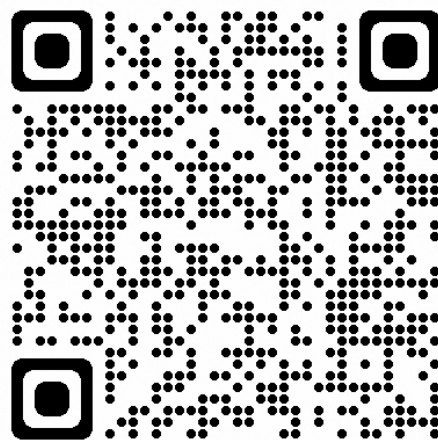
枚方版ICT教育モデル



大阪府教育庁ホームページより

令和5年度中学生チャレンジテストの実施について

- 実施概要
- 実施要領
- 実施にあたってのリーフレット



令和5年度中学生チャレンジテストの問題について

- 問題の内容
- 正答例

